【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成30年6月28日(2018.6.28)

【公開番号】特開2018-76345(P2018-76345A)
【公開日】平成30年5月17日(2018.5.17)
【年通号数】公開・登録公報2018-018
【出願番号】特願2017-240141(P2017-240141)
【国際特許分類】
Ａ０１Ｎ　43/80　(2006.01)
Ａ０１Ｎ　43/56　(2006.01)
Ａ０１Ｎ　43/653　(2006.01)
Ａ０１Ｎ　43/828　(2006.01)
Ａ０１Ｎ　25/00　(2006.01)
Ａ０１Ｐ　3/00　(2006.01)
Ａ０１Ｃ　1/08　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ０１Ｎ　43/80　１０２
Ａ０１Ｎ　43/56　Ｃ
Ａ０１Ｎ　43/653　Ｇ
Ａ０１Ｎ　43/80　１０３
Ａ０１Ｎ　43/828
Ａ０１Ｎ　25/00　１０２
Ａ０１Ｐ　3/00
Ａ０１Ｃ　1/08

【手続補正書】
【提出日】平成30年5月10日(2018.5.10)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
（Ａ）イソチアニル、ならびに
（Ｂ）以下より構成される群から選択される少なくとも１のさらなる化合物
（Ｂ２）イソピラザム（２．３）およびプロピコナゾール（２．４）から選択される他の殺真菌剤の群のメンバー
を含む組成物。
【請求項２】
構成成分（Ａ）：（Ｂ）を１：２５から２５：１の重量比で含む、請求項１に記載の組成物。
【請求項３】
請求項１または２に記載の組成物を、増量剤、界面活性剤またはそれらの組み合わせと混合することを含む、組成物を調製する方法。
【請求項４】
真菌および細菌を包含する植物病原性微生物を防除する方法であって、前記微生物またはそれらの生息場所に請求項１または２に記載の組成物を接触させること、または構成成分（Ａ）であるイソチアニルと構成成分（Ｂ）であるイソピラザム（２．３）およびプロ

ピコナゾール（２．４）から選択される少なくとも１つの化合物の組み合わせを接触させることを含む、前記方法。
【請求項５】
植物病原性細菌が、イネにおけるアシドボラクス・アベナエ（Ａｃｉｄｏｖｏｒａｘ ａｖｅｎａｅ）および／またはブルクホルデリア・グラマエ（Ｂｕｒｋｈｏｌｄｅｒｉａ ｇｌｕｍａｅ）、柑橘類におけるカンジダツス リベリバクター属種（Ｃａｎｄｉｄａｔｕｓ Ｌｉｂｅｒｉｂａｃｔｅｒ ｓｐｅｃ．）および／またはキサントモナス・アクソノポディス病原型シトリ（Ｘａｎｔｈｏｍｏｎａｓ ａｘｏｎｏｐｏｄｉｓ ｐｖ．ｃｉｔｒｉ）、キウイにおけるシュードモナス・シリンガエ病原型アクチニダエ（Ｐｓｅｕｄｏｍｏｎａｓ ｓｙｒｉｎｇａｅ ｐｖ．ａｃｔｉｎｉｄａｅ）、モモにおけるキサントモナス・カムペストリス（Ｘａｎｔｈｏｍｏｎａｓ ｃａｍｐｅｓｔｒｉｓ）および／またはキサントモナス・カムペストリス病原型プルニ（Ｘａｎｔｈｏｍｏｎａｓ ｃａｍｐｅｓｔｒｉｓ ｐｖ．ｐｒｕｎｉ）、ダイズにおけるシュードモナス・シリンガエ病原型グリシネア（Ｐｓｅｕｄｏｍｏｎａｓ ｓｙｒｉｎｇａｅ ｐｖ．ｇｌｙｃｉｎｅａ）および／またはキサントモナス・アクソノポディス病原型グリシネス（Ｘａｎｔｈｏｍｏｎａｓ ａｘｏｎｏｐｏｄｉｓ ｐｖ．ｇｌｙｃｉｎｅｓ）、穀類におけるブルクホルデリア属種（Ｂｕｒｋｈｏｌｄｅｒｉａ ｓｐｅｃ．）および／またはキサントモナス・トランスルセンス（Ｘａｎｔｈｏｍｏｎａｓ ｔｒａｎｓｌｕｓｃｅｎｓ）、トマトにおけるシュードモナス・シリンガエ（Ｐｓｅｕｄｏｍｏｎａｓ ｓｙｒｉｎｇａｅ）、シュードモナス・シリンガエ病原型トマト（Ｐｓｅｕｄｏｍｏｎａｓ ｓｙｒｉｎｇａｅ ｐｖ．ｔｏｍａｔｏ）および／またはキサントモナス・カムペストリス（Ｘａｎｔｈｏｍｏｎａｓ ｃａｍｐｅｓｔｒｉｓ）、キュウリにおけるシュードモナス・シリンガエ（Ｐｓｅｕｄｏｍｏｎａｓ ｓｙｒｉｎｇａｅ）および／またはシュードモナス・シリンガエ病原型ラクリマンス（Ｐｓｅｕｄｏｍｏｎａｓ ｓｙｒｉｎｇａｅ ｐｖ．ｌａｃｈｒｙｍａｎｓ）、ジャガイモにおけるエルウィニア・アトロセプチカ（Ｅｒｗｉｎｉａ ａｔｒｏｓｅｐｔｉｃａ）、エルウィニア・カラトボラ（Ｅｒｗｉｎｉａ ｃａｒａｔｏｖｏｒａ）および／またはストレプトマイセス・スカビエス（Ｓｔｒｅｐｔｏｍｙｃｅｓ ｓｃａｂｉｅｓ）から選択される、請求項４に記載の方法。
【請求項６】
構成成分（Ａ）および（Ｂ）を同時にまたは逐次的に施用することを含む、請求項４または５に記載の方法。
【請求項７】
葉面および土壌処理の場合に請求項１または２の組成物の量が０．１ｇ／ｈａから１０ｋｇ／ｈａである、請求項４から６のいずれかに記載の方法。
【請求項８】
種子を処理する方法であって、前記種子を請求項１または２に記載の組成物と接触させること、または構成成分（Ａ）であるイソチアニルと構成成分（Ｂ）であるイソピラザム（２．３）およびプロピコナゾール（２．４）から選択される少なくとも１つの化合物の組み合わせを接触させることを含む、前記方法。
【請求項９】
種子が遺伝子導入種子である、請求項８に記載の方法。
【請求項１０】
請求項１または２の組成物の量が２から２００ｇ／１００ｋｇ種子である、請求項８または９に記載の方法。
【請求項１１】
種子が、構成成分（Ｂ）で処理されるのと同時に構成成分（Ａ）で処理される、請求項８から１０のいずれかに記載の方法。
【請求項１２】
種子が、構成成分（Ｂ）で処理されるのと異なる時に構成成分（Ａ）で処理される、請求項８または９に記載の方法。

【請求項１３】
請求項１または２に記載の組成物で処理された、種子。
【請求項１４】
種子が遺伝子導入種子である、請求項１３に記載の種子。